

市政ニュース

第一生命保険相互会社がコウノトリの巣塔を寄贈 新たな巣塔にコウノトリ飛来の予感

9月4日、第一生命保険相互会社姫路支社（支社長…吉田和正）、第一生命労働組合姫路支部（委員長…朝見幸敏）から寄贈を受けたコウノトリの人工巣塔を田鶴野小学校近くの農道脇（野上）に設置しました。



▲田鶴野小学校の児童が見守る中、農道脇に設置された人工巣塔

これは、同社が「良き企業市民」として健全な社会の発展に貢献することを目指し、全社で「社会貢献活動」に取り組み、本市が進めている「コウノトリ野生復帰」を支援するために寄贈いただいたものです。設置費用の一部は、社員らによる募金活動、チャリティーバザー等で集められています。

当日は、田鶴野小学校体育館で贈呈式典が行われた後、児童たちが見守る中、クレーン車によって、巣塔が高さ13メートルの巣柱に取り付けられました。

巣台には、8月25日に児童たちがコウノトリの郷公園の飼育員と一緒に作製した巣が乗せられています。

同校6年生の田村湧雅くんは、「この人工巣塔でコウノトリがヒナを育ててほしいです」と話していました。

「インドネシア人研修生」を受け入れました 日本の水産業を学ぶために来日

豊岡市で漁業研修を受けるため来日したインドネシア人のソディキンさん（29歳）とアセプ・プスプリヤディさん（25歳）が、8月29日、市役所を訪れ、中貝市長を表敬訪問しました。

同研修は、国の「外国人漁業研修・技能実習」制度によるもので、2人は、但馬漁協津居山支所所属の底曳網漁船に乗り込んで漁業に携わる実務研修（9カ月半）と、日本語や漁業の知識を学ぶ陸上研修（2カ

月半）を受け入れます。その後、大日本水産会の試験に合格すれば、技能実習生となり、2年間の就労が認められます。

アセプさんが「不慣れな土地と仕事に少し不安はありますが、一緒に働けることを楽しみにしています」と日本語であいさつすると、中貝市長は「冬の日本海での仕事は厳しいですが、誇りを持って頑張ってください」と2人を激励しました。

円山川（弥栄町）の河川浄化活動を実施 環境保全は小さなことから一歩ずつ

8月24日、頑張れ!! E M 土団子 ホタル舞う大磯川 復古大作戦」と題して、弥栄町の円山川（廃川）に E M（有用微生物群）土団子を昨年引き続き投入しました。

E M 土団子は、団子に含まれるさまざまな酵母菌が作用し、浄化に有効だといわれています。

この取組みは、まちの開発・発展と生活様式の変化とともに汚れが目立つようになった河川を、以前のような美しい川へ蘇らせようと、豊岡環境

衛生推進協議会が実施しているものです。

当日は、同協議会の会員らと八条小学校5年生の児童ら約80人が、約3,000個の E M 土団子を次々と円山川（廃川）へ投入しました。

同協議会会長の日下部昌男さんは「環境を良くするためには、小さなことでも、まず始めることが大切です。その一歩が、大きな成果に結び付きます」と手に握った土団子に期待を込めていました。

主な市政の動き

【8月】

6日 子育てにかかる意見交換会

12日 出石藩夏まつり点火式

19日 但東消防団操法大会

22日 豊岡市ホームページアクセス数150万件達成

23日 京丹後市との合同会議・図書館相互利用協定書締結

25日 竹野消防団夏季訓練

26日 羽越水害40年シンポジウム（山形県中山町）

26日 兵庫神鍋高原マラソン

27日 北近畿豊岡自動車道早期実現促進大会・シンポジウム

27日 愛宕の火祭り

27日 豊岡市小学校体育実技研修会（神戸親和女子大学との連携プロジェクト）

【9月】

1日 竹野消防団第6分団小型ポンプ積載車引渡式

4日 稲葉川改修事業起工式・起工を祝う集い

5日 野上にコウノトリの人工巣塔設置

6日 ことぶき苑敬老会

コスモス荘敬老会

第28回兵庫神鍋高原マラソン全国大会を開催

澄みわたる青空の下 4,591人が健脚を競い合う

8月26日、神鍋高原の夏の風物詩・兵庫神鍋高原マラソン全国大会を、県立但馬ドームを発着点とする神鍋高原周回コースで開催しました。

当日は、4,591人のランナーが日差しが照り付ける残暑の中、コース内に設けた給水所やシャワーで涼を取りな

がら高原を駆け抜け、見事4,345人が完走しました。

また、競技に参加したランナーや会場を訪れた家族連れなどの観衆は、スイカやトマトのサービス、ニジマス釣りやつかみ取り、但馬牛のバーベキューなどの各種アトラクションを満喫し、楽しい夏の思い出をつくっていました。



▲沿道から声援を受けながら走る参加者たち

「国際ソロプチミスト但馬」が八条幼稚園に園庭緑化設備を寄贈 子どもたちが安全に遊べる環境づくり

8月30日、国際ソロプチミスト但馬から、子どもたちが安全に遊べる場所づくりに役立ててもらおうと、八条幼稚園に園庭緑化設備（砂場の日陰づくり設備）の寄贈を受けました。これは、同会が開催したチャリティーバザーの収益金の一部によるものです。

同会からは、豊岡市民プラザの「テラスガーデン」をはじめ、プラポン絵本の制作費、東保育園や城南保育園の植栽など、たくさんの寄贈を受けています。

八条幼稚園では、グラウンドに日陰となる場所が少ない状態でしたが、今回の寄贈により、暑い日でも園児たちが休息し、涼む場所ができること喜ばれています。

同会会長の大橋艶子さんは「私たちの活動が子育て支援に役立ってくればうれしいです」と話すと、中貝市長は「市が進める『子育てが楽しいまち豊岡』の取組みに一層の後押しを受けました。ありがとうございました。」と答えていました。



▲国際ソロプチミスト但馬の大橋会長（左から2人目）から寄付目録を受ける中貝市長

中貝市長の健康日記 ③

ゴミを捨てる人々

ああ、腹が立つ。ゴミを捨てる人々のことである。

メタボ撲滅大作戦に奥田・オオサンショウウオ副市長と共に敢然と立ち上がった私は、毎朝6時半に家を出て約1時間ウォーキングを始めた。ところが、である。

歩道には、タバコの吸い殻をはじめさまざまなものが捨てられていて、気になる。汚い。最初は妻が始めた。ゴミ袋を持って出発し、帰り道で拾うのだ。妻が日焼け対策でウォーキングを中断してからは、私が何日かに一度ゴミ袋を持って歩いていく。

拾っても拾っても新しいゴミがある。特にタバコがのさばっている。ゴミを平気で捨てることができる人々とはどのような人々であろうか。行きはさっそうと早歩きでいいのだが、帰りはやたらと前屈運動が入って、スピードが落ちる。朝は忙しいのに、

である。しかも、私が健康増進課から持たされている歩数

計には「しつかり歩き」という項目もあって、10分以上継続して歩かないと、歩数はゼロ。帰り道の歩数は得点にならない。無念である。

腹立ちまぎれに「ポイ捨ては極刑にするぞ!」と妻にわめいてみたが、地方自治法は、条例で科することができ最高刑は2年の懲役または禁固と定めているし、罪刑法定主義は、罪と罰の均衡を求めている。仮に罰則を設けても、取り締まる人手もない。条例を作っても単なる自己満足に終わる可能性もある。

どうすればいいのだ。捨てる人あれば、拾う人あり。先日、市の消防士と話をしていたら、彼も散歩がてら拾っているのだと言っていた。

ゴミを捨てるな、ゴミを拾おう。そう叫びたくなる今日このごろである。

